

国際トレンド



国際会計士連盟 (IFAC)
中小事務所委員会テクニカル・アドバイザー
おかだ ひろのり

岡田 博憲

IFAC—中小事務所委員会 (SMPC) ニューヨーク会議報告

1 はじめに

2019年6月24日及び25日に、国際会計士連盟 (International Federation of Accountants:IFAC) の本部にて、中小事務所委員会 (Small and Medium Practices Committee: SMPC) のニューヨーク会議が行われた。本稿では、その会議内容を報告する。IFACのホームページによれば、2005年に設立されたSMPCは、議長と副議長を含む18名のボランティアで構成されており、職業会計士の戦略的な諮問機関として、①基準設定、②リソース及びツール、③対外活動といったIFACの3つの主要な活動分野における業務を支援している¹。SMPCは、主要な法域 (jurisdiction) ごとのSME (中小企業) 及びSMP (中小事務所) を代表して、国際的な基準設定プロセスに対する定期的かつ適時なインプットを行うと同時に、中小事務所がグローバルな市場で競争することを支援するために、リソースの共有やガイダンス等のツールを提供している。また、規制当局や基準設定主体等との対外活動を積極的に行うことにより、中小事務所のプレゼンスの向上に貢献している。なお、SMPCの会議は非公開であり、議題に関連する資料の公表も行われておらず、

特別な場合を除いて傍聴も受け付けない前提であるため、限られた内容であることに留意されたい。

2 イントロダクション

最初に、Monica Foerster SMPC議長から開催の辞が述べられ、今回から新たにテクニカル・アドバイザー2名 (ブラジル、スウェーデン) が加わる事が伝えられた。次に、2019年2月に東京で開催されたSMPC会議議事録の承認がなされた。

3 モニタリング・グループ

モニタリング・グループ (MG) ・アップデートとして、IFACのExecutive DirectorであるSylvia Tsen氏から、2018年10月のロンドンでのSMPC会議以降のMGの最新情報が説明された。2018年10月以降、MGから新しいペーパーは発行されていないが、2019年1月にKevin Dancey氏がIFACのCEOに就任したとの報告があった。Dancey氏が就任して以降、これまでとは異なったアプローチにより、MGや公益監視委員会 (PIOB) とIFACの関係が改善されているとのことである。

4 2019 SMP-SME Work Plan

SMPCの2019 SMP-SME Work Plan(作業計画)について、2019年6月までの進捗状況の更新と質疑応答があった。この作業計画は、IFAC Strategic Plan(戦略計画)2019-2020²に従って作成され、2019年に実施予定の重要な活動を定めている。

5 IAASBアップデート

国際監査・保証基準審議会 (IAASB) ボード・メンバーの Fiona Campbell 氏からIAASBアップデートとして、公開草案「国際監査基準315改訂案-重要な虚偽表示リスクの識別と評価-Exposure Draft, ISA315 (Revised), Identifying and Assessing the Risks of Material Misstatement」の審議状況についての説明があった。IAASBは、2019年3月のボード会議で、ISA315 (Revised)の冗長さと複雑さ並びにISA適用の柔軟性 (scalability and proportionality) に関する包括的な懸念に対処するために、ISA315 (Revised)を起草するための新しいアプローチに合意した。そのアプローチは、監査人が企業の内部統制システムを理解するための要件として、現在の基準の堅牢性を維持しながら、より広範かつ高いレベルで、監査人は「何を」すべきか、監査人は「なぜ」要求された監査手続を実施するのか、要求事項は「どのように」適用されるかについて、要求事項を分類する方法が採られている。また、基準の中で使用されている特定の単語又は用語の意味が定義 (definitions) のセクションに移動されている。これらのアプローチを受けて、タスクフォー

スは、適用指針 (application material) を再検討し、その内容に広範囲な変更を加えている。今後のタイムラインとしては、IAASBでのテレカンファレンス、監査監督機関国際フォーラム (IFIAR) 及び助言諮問機関 (CAG) へのアウトリーチを経て、2019年9月のボード会議にて最終基準の承認が見込まれている。質疑応答では、新しいフォーマットによる改訂版は概ねリーズナブルであると評価する一方で、入手した監査証拠が、職業的専門家としての懐疑心を識別し評価するための基礎を提供するかどうかといった新たな要求事項に関して、中小事務所には負荷が大きいのではないかという意見もあった。

6 複雑でない企業の監査 (Audits of Less Complex Entities:LCE)

IAASBのボード・メンバーであり、LCEワーキング・グループのメンバーでもある Isabelle Tracq-Sengeissen氏より、2019年4月にIAASBから公表された「複雑でない企業の監査に関するディスカッションペーパー (Discussion Paper, Audits of Less Complex Entities)」に関する説明があった。このディスカッションペーパーでは、LCEをどのように定義できるかに加えて、LCEに係る監査基準を開発するにあたって、①監査意見に対する保証のレベルがISAと同等であるLCEの監査のための独立した基準を開発するか、あるいは②既存のISAを改訂するか、③合理的な保証を得るために異なるフレームワークの基準を開発するかといった本質的な検討事項を含んでいる。

その後、SMPCのメンバーが小グループに分かれ、ディスカッションペーパーでカバーされた範囲についてブレイクアウト・

セッションを行った。そこでは、複雑でない企業の監査にISAを適用する際の課題の「根本的な原因」は何か、あるいは、LCEをどのように定義すべきか、また、そこに含めるべき他の特質はあるか等がメンバーの間で議論された。議論の中では、既存のISAを改訂する方が、共通の用語を用いる点で基準としてクリアであり、基準の品質も確保できるとする意見があった一方で、基準改訂に相当の時間を要するのではないかという意見もあった。

7 IESBAアップデート

国際会計士倫理基準審議会 (IESBA) の副ディレクターである Diane Jules氏並びにボード・メンバーである Andrew Mintzer氏及び Patricia Mulvaney氏により、IESBAアップデートとして、IESBA Strategy and Work Plan 2019-2023³ についての現状報告と、2019年6月に開催されたボードミーティングの報告があった。IESBAアップデートでは、現在有効な職業会計士のための国際倫理規程 (国際独立性基準を含む。) の電子版である e-Code の紹介が中心に行われた。2019年6月のボード会議では、AIによる機械予測の普及といったテクノロジーの発展にともなう新しい倫理の問題や職業会計士に期待される役割及びマインドセットの促進を目的とした行動規範の改正提案、自己レビューを生み出す可能性のある監査クライアントへの非保証業務 (NAS) の提供及び報酬関連規定の変更案について議論が行われた。このうち、報酬関連の変更案に関しては、請求又は見積もられた報酬のレベルが著しく低い場合や、報酬依存度が15%を超過した場合に監査人の独立性に影響を与える可能性があることに

ついて議論された。特に、報酬依存度が大幅に15%を超える場合は、超過年度においてガバナンスに責任を負う者(those charged with governance)に対してその事実を開示・議論するとともに、監査報告書においてもその内容を開示することが検討されている。また、その状態が5年以上継続する場合は、監査人は監査契約を打ち切らなければならないとされている。この点、わが国の中小事務所の一部がこの変更案に抵触する可能性があり、今後の審議内容を注視する必要があると思われる。

8 グローバル倫理イニシアチブ

SMPC副議長であり、SMPC Ethic Task ForceのRobyn Erskine氏及びTechnical ManagerのJohnny Yong氏より、グローバルな会計職業専門家団体(PAO)による倫理イニシアチブについての説明があった。今日、倫理に関する情報共有・収集の課題は、新しく革新的なアプローチによって注目されているが、中小事務所にとって、倫理規程への対応やPAOがその対応をどのように支援しているかが重要なテーマとなっている。大規模なPAOのほとんどは、ウェブサイト、ヘルプライン、継続能力開発(CPD)コース、及び倫理関連のコンテンツをジャーナル等で提供し、テクノロジーによる倫理への影響を検討するなどの思考的リーダーシップを発揮している。メンバーはこのようなPAOの取組みを調査することが求められており、将来的には、その情報がIFACグローバル・ナレッジ・ゲートウェイ(IFAC Global Knowledge Gateway)⁴を通じて利用可能になることを目指しているとのことであった。

9 SMPの将来(The SMP of the Future)

エンジンバラグループ(EG)⁵議長のEamonn Siggins氏が、ビデオプレゼンテーションによって、EGの概要と2019年1月に発行されたレポート(The SMP of the Future in a Changing World)の紹介を行った⁶。このレポートでは、中小事務所とPAOが協力し、優れた業務上の関係をどのように維持するかについての推奨事項(recommendations)が示されている。また、このレポートは、中小事務所とそれをサポートするPAOが、デジタル技術や規制が変化する環境の中で、持続し発展するために必要な教育とスキルの規制緩和等について、急速に進展する将来の変化に向けて共に準備するべきであると提言している。レポートは4つのパートに分かれており、パート1が中小事務所とPAOに関する実務的な推奨事項を示しており、パート2はEGスタッフ調査の結果とインタビューを紹介している。また、パート3がEGによる中小事務所の将来調査の結果の報告であり、最後に、パート4が中小事務所に関する既存の専門及び学術文献のレビューから構成されている。このレポートから、各国のSMPは、将来の課題として、特に、サイバーセキュリティや人工知能(AI)等への対応や投資を重視しており、そのための人材の確保や教育を喫緊の課題としてとらえていることが紹介された。

その他のトピックとして、Yong氏から、CPAアイルランドのイニシアチブとマレーシアのe-Merger⁷の紹介、メンバーのGeorge Willie氏及びTechnical AdviserのCarl Peterson氏からは教育機関(大学)での人材確保及びCPAのプレゼンス向上のための米国公認会

計士協会(AICPA)の様々な取組みについて、Technical AdviserのOana Nicorescu氏からはルーマニア公認会計士協会(CECCAR)の紹介とルーマニアにおける中小事務所の競争戦略について説明があった。

その後、メンバーが2つのグループに分かれ、1つのグループでは、中小事務所の立場から、提供されるサービス、テクノロジーの利用、デジタルスキル、人材、そして、伝統的な事務所組織の進化の観点から、5年後の中小事務所はどのようになっているのか、又は将来的にグローバルリーダーに必要とされる重要なスキルは何かについて議論した。一方、もう1つのグループでは、PAOの立場から、中小事務所が将来の変化に適応できるようになるために、PAOはどのような既存ないし他の革新的な取組みを検討できるか、PAOはどのようにイニシアチブの影響を測定できるかについて、ブレイクアウト・セッションが行われた。

10 IAASBへの公式なインプット品質マネジメント基準関連

IAASBが2019年2月に発行した3つの品質管理基準の公開草案である「国際品質管理基準1(監査事務所の品質マネジメント)」ISQM1(International Standards on Quality Management 1)、「国際品質管理基準2(審査)」ISQM2(International Standards on Quality Management 2)、「国際監査基準220(監査業務における品質マネジメント)」ISA220(International Standards on Auditing220)について、メンバーの追加の意見を確認し、3つの公開草案に対するSMPCの最終的な回答を完成させるとともに、中小事務所の実務家がどのようにしてその適用を検討し始めるこ

とができるかについて議論した。

11 インパクトとリーチの強化

最後の報告では、各国のPAOに対するインパクトとリーチを強化する観点から、どのような洞察とアウトプットをどのような方法でメンバーが共有するかに焦点を当てている。つまり、各国のPAOとの連携強化のために、それぞれのPAOへのプレゼンテーションや会員組織のための会議録の作成、メンバーイベントでの発表等が必要であるとのことである。また、インパクトを強化する手段として、IFACグローバル・ナレッジ・ゲートウェイの隔週電子メールを、記事の複製及び翻訳を依頼するメンバー組織の主要連絡先と共有させることや、ソーシャルメディア上でのIFACグローバル・ナレッジ・ゲートウェイ記事及び中小事務所の情報の定期的な広告(SMPC twitterやSMP LinkedInコミュニティなど)等の活動が紹介された。さらに、SMPCの外部の活動や成果に従事していない、又は関与していない可能性があるメンバー組織との連携強化のために、オンライン・ウェビナー(online webinars)が2019年に計画されているとのことであった。

12 おわりに

次回のSMPC会議は、2019年10月

21日、22日に、同じくニューヨークのIFAC本部にて開催される予定である。

<注>

- 1 SMPCの活動についての詳細は、樋口尚文・納野知広[2017]、「IFAC—中小事務所委員会(SMPC) ニューヨーク会議報告」、『会計・監査ジャーナル』No.743、pp.94-95を参照のこと。
- 2 IFACの戦略目標におけるIFACの目的と公共の利益は、①高品質な国際基準の開発、適用、及び運用への貢献と促進、②将来に備えたプロフェッション、③グローバルなプロフェッションのための対外活動といった3つの戦略目標に焦点を合わせることで達成される。
- 3 IESBAの戦略テーマとしては、①グローバルな行動規範を進化する環境に適合させ、倫理観をさらに高めることによる、行動規範の関連性と影響の促進、②世界的な適用の拡大と行動規範の効果的な実施による行動規範の影響の深化と拡大、③利害関係者と積極的に関与し協調的な手段探求することによる、IESBAの見解とインプットの拡大の3つがある。詳細は、<https://www.ifac.org/publications-resources/iesba-strategy-and-work-plan-2019-2023>を参照のこと。
- 4 IFACグローバル・ナレッジ・ゲートウェイは、会計専門職にかかわる様々なニュースや各国の専門家から寄せられた

意見記事、各IFAC加盟団体の取組みに関する資料等を1つに集約したIFACのニュースポータルサイトであり、中小事務所にとっても有用な情報を取得できるツールの1つとなっている。IFACのウェブサイトを参照のこと。

- 5 EGは、世界中から集まった16の会計士団体の連合で、アフリカ、北アメリカ、アジア、オーストラリア、ヨーロッパ、ラテンアメリカの国々で90万人以上の職業的会計士を代表している。2000年に結成されたEGの使命は、国際的会計専門職の発展が、世界経済と社会全体の進歩を反映して、その多様な利害関係者のニーズを確実に満たすことである。そのためにEGは、IFACの中で、特に中小企業及び中小事務所、企業内及び発展途上国の職業的会計士の利益を擁護している。
- 6 詳細は<http://www.edinburgh-group.org/activities/papers.aspx>を参照のこと。
- 7 マレーシア会計士協会(MIA)が運営する中小事務所向けの無料のポータルサイトである。合併・提携先を探している中小事務所は、このポータルサイトに登録することにより、合併・提携先とのマッチングが可能になる。詳細は、<https://www.mia.org.my/v2/e-Merger/e-Merger.aspx>を参照のこと。